

平成 27 年 12 月 北秋田市長定例記者会見

平成 27 年 12 月 1 日（火）13 時 00 分

市役所本庁舎 大会議室

1. 平成 27 年北秋田市議会 12 月定例会について
2. 森吉山ビジターセンターの完成について
3. 北秋田市民公開講座「認知症と正しく向き合う」の開催について
4. 拉致問題啓発演劇公演「めぐみへの誓い」の開催について
5. その他
 - ・ 12 月の行事予定
 - ・ 秋田内陸線沿線住民意識調査について

1. 平成 27 年北秋田市議会 12 月定例会について

本日、平成 27 年北秋田市議会 12 月定例会を 12 月 8 日に招集することといたしました。

今定例会には、「行政不服審査法の全部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について」をはじめとする条例案が 12 件、補正予算案が 12 件、「市道路線の廃止について（昭和～合地線外 5 路線）などの単行議案が 7 件の計 31 件の提案を行うことといたしております。

概要につきましては、本で行われました議会運営委員会において総務部長から説明をさせていただきますが、特に一般会計補正予算案について説明させていただきますと、既定の予算額から 782 万 1 千円を減額して、総額を 228 億 9,888 万 2 千円とすることとしたものであります。

歳出の主なものといたしましては、

○公立保育所民間移管共同保育事業として、

100 万円

○地域活性化・地域住民生活等緊急支援事業（地方創生関連）として、

1,100 万円

○予防接種委託事業として、

67 万 2 千円

などを計上いたしております。

2. 森吉山ビジターセンターの完成について

この度、森吉山阿仁スキー場ゴンドラ山頂駅舎の隣に建設を進めておりました「森吉山ビジターセンター」が完成いたしました。

この建物は木造二階建てとなっておりまして、二階部分には高山植物等に関する自然教室や樹氷教室などを開催できる「レクチャールーム」のほか、飲食しながら景色を楽しむことのできる「テラス」を設置しております。

また、ゴンドラ山頂駅舎と連絡通路で繋がっておりますことから、駅舎から直接建物へと入ることができるようになっております。

そして、山麓駅舎には、この度、階段の昇り降りが困難な方などの利用を想定した「二階ゴンドラ乗り場行きの小型エレベーター」を設置したところであります。これによりまして、これまでゴンドラに乗るのをためらっていた方であっても気軽にゴンドラを楽しんでいただくことができるようになり、「いつでも」、「だれでも」四季折々の森吉山の雄大な景色を楽しむことができるようになりました。

また、8月から募集をしておりました施設の愛称につきましては、146名から273点の応募をいただいたところでありまして、愛称は、ひらがなで『ぷらっと』に決定いたしました。

この愛称は、神奈川県在住の男性よりご応募いただいたものでありまして、森吉山を訪れた方に気軽に立ち寄ってもらいたいという思いが込められており、当市の森吉山観光についての方向性であります「いつでも」、「だれでも」というフレーズにも非常にマッチしているものであります。

この森吉山ビジターセンター『ぷらっと』の利用開始は、森吉山阿仁スキー場がオープンいたします今週12月5日（土）からとなっております、より多くの皆様が気軽に森吉山を“ぷらっと”訪れ、雄大な自然を心から楽しんでいただけるよう、大いに期待しているところであります。

3. 北秋田市民公開講座「認知症と正しく向き合う」の開催について

12月7日（月）午後1時30分から、北秋田市文化会館ホールにおきまして、秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座 助教 高橋裕哉（たかはし ゆうや）医師を講師に迎え、『身近な認知症とその予防策』と題した講演を開催いたします。

急速な高齢化により、2025年には国内の65歳以上の約5人に1人が認知症になると予想されており、当市におきましても、認知症患者の増加を背景に認知症患者本人やその家族を地域で支え合うためのネットワークづくりや、見守り等の体制整備が喫緊の課題となっております。

市では、この課題を解決するために、市民一人ひとりが認知症に対する正しい知識を持ち、理解をすることが必要不可欠であると考えておりまして、これまでも「認知症サポーター養成講座」などを開催してまいりました。

今回の講座は、認知症専門医のお話を直接聞くことができる大変貴重な機会でもありますことから、認知症サポーターはもちろん、多くの市民の皆様にご参加いただきたいと考えておりますので、マスコミの皆様からもPRをよろしくお願いいたします。

4. 拉致問題啓発演劇公演「めぐみへの誓い」の開催について

来年、2月13日（土）午後1時30分から、北秋田市文化会館ホールにおきまして、拉致問題啓発演劇公演「めぐみへの誓い」が行われます。

この劇は、俳優の「原田大二郎さん」をはじめとする実力派の俳優により上演されるものでありまして、拉致被害者であります横田めぐみさんのご家族の体験や北朝鮮から脱北した人々の情報を元にストーリーが描かれており、拉致問題の辛い実態を理解することができるものとなっております。

入場は無料で、市民に限定することなく、どなたでも入場いただけますが、事前に申し込みが必要となります。観覧の受付は、12月15日（火）から開始することにしており、市役所総務課又は各窓口センターに配置している用紙を提出いただくか、電子メール、FAX、往復はがきのいずれかにより、お申込をいただくことになります。

拉致問題に関しては、政府認定被害者以外にも北朝鮮による拉致の可能性のある失踪者がおります。秋田県関係では、1992年に当時の合川町の自宅を出たまま行方が分からなくなっている、松橋恵美子さん（当時26歳）をはじめ、5名の方にその可能性があります。地域の皆様が拉致問題への認識を深め、拉致の悲劇を心から理解することにより、一刻も早い問題解決の一助になればと開催するものであります。

【拉致問題啓発演劇について】

- ・先着順500名（応募締め切り終了後、入場整理券を申し込み代表者へ送付）

【その他】秋田内陸線沿線住民意識調査について

8月から9月にかけて実施いたしました、「秋田内陸線沿線住民意識調査」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

この調査は、昨年12月の秋田県議会第三セクター等の経営に関する調査特別委員会の提言に基づき、秋田内陸地域公共交通連携協議会が実施したものでありまして、皆様のお手元に調査結果を配布させていただいております。

調査結果につきまして、いくつかご紹介いたしたいと考えておりますので、

資料4をご覧ください。

まず、グラフ1に示しております秋田内陸線の乗車頻度については、「ほとんど利用しない」を含め、利用していないという回答が全体の7割を超えておりました。これは、このアンケートを北秋田・仙北両市の全域にわたって実施したため、沿線以外の地区の住民も調査対象となっているためと考えております。

次に、グラフ15及びグラフ16をご覧ください。

両市及び県による2億円の公費負担を認識しているという回答が約8割を占める中で、「現状のまま鷹巣一角館間を運行すべき」という回答が半数を超えております。このことから、現行の運行に対しては一定の理解が得られているものと考えております。

次に、グラフ22をご覧ください。

「現状のまま運行すべき」と回答した方に、許容できる運営費の負担額について伺ったところ、「2億円程度であれば妥当」と「2億円を超えてもやむを得ない」の回答を合わせると半数を超えており、公費負担についても一定の理解が得られているものと考えております。

最後に、グラフ24をご覧ください。

今後の運行については、地区別、年代別、乗車頻度別のいずれを見ても「生活交通路線と観光路線を同じ比重で運行すべき」とする意見が多く、当面は両方の側面を見据えたきめ細かい取り組みを進めていく必要があると感じております。

今回の調査結果については、今後、詳しい分析を行っていくことになります。また、市のウェブサイトを通して市民の皆様にお知らせをする予定としております。